

# 『藤農便り』 第1号

## 農業生産法人 藤野倶楽部 宮本 透（自然文化誌研究会 監事）

東日本大震災から4年目の3月11日、生まれてから57年間住み慣れた湘南の街藤沢から神奈川と山梨の県境の町旧津久井郡藤野(相模原市緑区)に引っ越しました。都会でしか生活したことのない私にとって藤野での山暮らしは戸惑うこともあります。豊かな自然環境と人間関係のおかげで久しぶりに前向きの生き方ができるようになりました。藤野での新しい仕事や出会いをお伝えしていきますのでお付き合いください。

**・貧困生活** 2013年3月教員免許状を失効して失職、27年間の教員生活に終止符を打ちました。高校3年の担任だったので2~3月は進路の決まらない生徒の指導をしながらハローワークに通いましたが、希望した農業関係の仕事は神奈川県内にはほとんどありません。紹介されたのは週4日勤務の植物園のパート技能員でした。この年の夏、遊びに来た卒業生たちと食事をした時、彼らの給料の話聞いて思わず叫んでしまいました。「君たち、私よりも高給取りなのに私におごらせるのかよ！」と。日本の非正規雇用労働者が強いられている格差社会の厳しさを改めて知る出来事でした。

現金収入は激減しましたが、週4日8時間労働以外の時間は自由になりました。また、県教委・管理職の理不尽な指導や自己中でわがままな生徒と接することがなくなったことでストレスからも解放され、心身の健康を取り戻しました。農業高校に勤めながらなかなかできなかった畑仕事をやるために、平塚で農業をしている猪俣さんの畑へ週1回農ボランティアに通い、ちえのわ農学校のスタッフになりました。INCHのHPに「農場でキビ、大豆の栽培を始める(1984)」とありますが、その当事者として娘や息子よりも若い後輩たちと再び学大の農場を耕せようになったことはとても幸せです。

猪俣さんやちえのわの後輩たちとの付き合いは、「農業を仕事にしたい」という気持ちを確固たる物にしてくれ、転職活動のきっかけの一つになりました。

**・藤野との出会い** 中込メさんが卒業した後閉じてしまった自然文化誌研究会の部室を再び開けたメンバーの一人が成合君、彼は部室に「探検部頑張れ！」と書いた日の夜、交通事故にあって亡くなりました。1984年10月31日のことでした。人一倍探検部に思い入れていた彼をしのび、命日近くの土曜日の夜、兄上の正和さんと草創期の仲間たちが菩提寺のある日暮里に集まり、墓参をした後「成合会」と称する同窓会を行っています。

30回目の成合会、いつも大学院入試と重なって参加できなかった木俣さんが久しぶりに出席しました。「農業の仕事を探しているのですが、神奈川では見つからず地方に移住するか迷っています」と話すと、「藤野に農業生産法人をしている知り合いがいるので紹介しましょうか」と相談に乗って

れました。昨年12月農業生産法人藤野倶楽部を紹介され、トランジション藤野のワーキンググループお百姓クラブの会合に参加した時のことです。「木俣さんと藤野のつながりは何ですか?」と質問すると、「お百姓クラブの方たちが雑穀の種を求めて学大に来られた時、宮本君たちが秋山村(現上野原市)で採取したアワの種を提供したのがお付き合いの始まりですよ」と話してくれました。確かに30年前、木俣研のメンバーで秋山村を調査したことがありました。つるべ落としの秋の日、真っ暗な秋山村の山道を車で走っていた時のことを思い出し、縁とは不思議なものだと深く感じました。そして藤野で農業をする気持ちが固まりました。

**・藤野の生活** 4月入社に向け1月下旬から週末は藤野で研修しましたが、温暖な湘南育ちの私にとって部屋の花瓶の水が凍る藤野の冬の寒さはこたえました。藤野倶楽部の仕事は学校とは別世界で、特に韓国料理のレストラン「百笑の台所」や古民家「無形の家」での接客は当初とまどいました。2011年のアニメ「花咲くいろは」を思い出し、コミックを購入して勉強していますが、喜翠荘従業員のレベルになるには修行が必要です。

体を使う仕事のおかげで体重が減りました。25歳になる娘が高校生の頃「父の夢は都幾ちゃんと一緒にカラオケに行くことなのだけ」と願うと「夢の実現はお父さんの体重が70kg以下になった時だよ!」と言われました。当時82kgの私に夢の実現はムリと思われましたが、藤野に引っ越して愛用するやまなみ温泉の体重計目盛はなんと66kg。先日10年越しの夢を果たし、思い残すことは無くなりました。

息子との会話が増えたのも新しい出来事です。彼との確執は家庭崩壊の一因でしたが、就活をする息子と転職をする父と接点ができたのでしょう。冒探王 vol.11 の特別寄稿文の感想をくれたのは嬉しかったです。「とりあえず学生時代の冒険の思い出書けよ!」が第一印象。でも読み終えたらこの変な父の教員人生自体が冒険なのかと妙に納得しました」とありました。

紙数が尽きたので藤野倶楽部の農業の仕事は次号でお伝えします。



佐野川エリアの茶畑にて→